

**情報通信審議会 情報通信技術分科会 ITU部会  
衛星・科学業務委員会（第9回）  
議事概要**

- 1 日時 平成26年6月5日（木） 15:30～17:10
- 2 場所 中央合同庁舎2号館 総務省 10階 第1会議室
- 3 議題
  - (1) 衛星・科学業務委員会（第8回）議事概要（案）について
  - (2) ITU-R SG4関連会合（2014年6～7月）への日本寄与文書（案）について
  - (3) ITU-R SG4関連会合（2014年6～7月）の外国等寄与文書の審議表（案）について
  - (4) ITU-R SG4関連会合（2014年6～7月）の対処方針（案）について
  - (5) その他
- 4 配付資料
  - 資料 衛・科-9-1 衛星・科学業務委員会（第8回）議事概要(案)
  - 資料 衛・科-9-2 ITU-R SG4関連会合（2014年6～7月）への日本寄与文書(案)
  - 資料 衛・科-9-3 ITU-R SG4関連会合（2014年6～7月）の外国等寄与文書の審議表(案)
  - 資料 衛・科-9-4 ITU-R SG4関連会合（2014年6～7月）の対処方針(案)  
  - 参考資料1 衛星・科学業務委員会 関連WG審議報告
  - 参考資料2 ITU-R SG4 関連会合（2014年6～7月）の開催案内（4/LCCE/116）
  - 参考資料3 ITU-R SG4関連会合（2014年6～7月）の日本代表団一覧（予定）
  - 参考資料4 今後のITU-R SG4及びSG7関連会合の開催予定
  - 参考資料5 WRC-15に向けた検討の主な流れ
  - 参考資料6 衛星・科学業務委員会 構成員名簿（平成26年6月現在）
  - 参考資料7 衛星・科学業務委員会 衛星業務WG 構成員名簿（平成26年6月現在）
  - 参考資料8 衛星・科学業務委員会 時間周波数WG 構成員名簿（平成26年6月現在）
- 5 出席者（敬称略、順不同）
  - 主 査：加藤 寧（東北大学）
  - 主査代理：井口 俊夫（情報通信研究機構）
  - 構 成 員：藍沢 志津（マルチメディア振興センター）、大石 雅寿（国立天文台）、加保 貴奈（日本電信電話）、河合 宣行（KDDI）、

岸田 花子（フジテレビジョン）、小松 大実（スカパーJSAT）、佐藤 祐子（東芝）、堂前 光洋（エム・シー・シー）、徳永 恭子（NEC東芝スペースシステム）、橋本 明（NTTドコモ）、藤沢 秀一（日本放送協会）、森川 容雄（アンリツ）、丸井 俊昌（気象庁）

関係者：河野 宇博（スカパーJSAT）、鈴木 陽一（NHK放送技術研究所）、田中 祥次（日本放送協会）、福井 裕介、福家 直樹（以上、KDDI）、三留 隆宏（日立製作所）、山下 史洋（日本電信電話）、Julian Webber（国際電気通信基礎技術研究所）

事務局：新井 課長、藤沼 課長補佐、竹下国際係長、杉浦衛星事業係長、桐山 国際係官（以上、衛星移動通信課）、西森 第二技術係長（移動通信課）、尾崎 国際政策係官（国際周波数政策室）

## 6 議事概要

開会に際し、主査から、構成員に加え関係者も専門的立場から審議に参加するとの説明があった。

### (1) 衛星・科学業務委員会関連WG審議報告

参考資料1に基づき、河合構成員（衛星業務WG主任代理）から、衛星業務WGの活動報告がなされた。

### (2) 衛星・科学業務委員会（第8回）議事概要について

資料 衛・科9-1に基づき、衛星・科学業務委員会第8回会合の議事概要（案）について事務局から説明があり、特段の意見がある場合は、事務局あて連絡することとなった。

### (3) ITU-R SG 4関連会合（2014年6~7月）への日本寄与文書（案）について

WP4Aへ5件、WP4Bへ4件、WP4Cへ1件、合計10件の日本寄与文書（案）について審議がなされ、10件の寄与文書（案）が承認された。

## ○ WP4A（放送衛星（BSS）、固定衛星（FSS）の軌道／周波数の有効利用）関係

### ・新勧告草案に向けた作業文書

「3400 - 3600 MHz帯においてFSS地球局とMS基地局が共存するために必要な離隔距離の算出方法」（4A/J-1）

資料衛・科9-2-1に基づき、福家氏（KDDI）より説明があった。  
主なやり取りは、以下のとおり。

大石 構成員：最初の段落にあるRRの脚注番号について、5の後にピリオドが必要である。

また、recommendsに「~should be used」とあるが、

使役を意図しているのであれば、shouldを削除する方がより強いニュアンスとなる。

さらに、表3の1番上の行が空欄だが、何か記載するのか、それとも、左上の項目（Base station~）が下にずれているのか。

福家 氏：RRの脚注番号についてはご指摘のとおり修正する。recommendsについては、強いニュアンスを意図しているため、shouldを削除する。

表3については、WP5DからJTG4-5-6-7へのリエゾン文書に記載されている表をそのまま使用したが、貼り付ける際にずれた可能性があるため確認する。

橋本 構成員：§6.2のMethod 2の2項目において、FSS地球局のアンテナパターンに関する記述があり、ITU-R勧告F.1336が参照されている。本勧告は、地上系システムのアンテナパターンを規定するものであるため、地球局のアンテナパターンを規定するSシリーズの勧告を記載すべきである。

また、ANNEX 2の図2について、破線と実線間の領域の説明として「Deployment of IMT stations limited」とあるが、PFD制限値を満たさないのであれば、limitedではなくimpossibleではないか。

福家 氏：Method 2のアンテナパターンを規定する勧告については再確認する。

ANNEX 2のポンチ絵については、図1の下の文書で「~whose administration has so agreed」と説明しており、隣国間で合意すれば不可能ではないとしているため、limitedとしている。

橋本 構成員：破線と実線間の領域とCoordination zoneはどのような関係か。

河合 構成員：実線と破線の間は、PFD制限値を満足してないが二国間で合意すれば共存可能な領域である。図2のように地球局のCoordination zoneが国境を越える場合は、仮にPFD制限値を満足したとしても、調整を要求されれば調整する必要があるということを意図している。

河野 氏：§5のShort-term interference criterionは、ITU-R勧告SF.1006に基づいて記載されているが、本勧告では電力と時間率に関する数式が記載されている。WG後の追記箇所は、時間率にのみ言及されているため、注釈も勧告に合わせた表現にしてほしい。

福家 氏：本件について、本寄与文書で新しく課題を提案する意図はなく、既存の勧告や手法を参照している。この段階で新たなパラメーターを提案すると、JTG4-5-6-7会

合での審議に影響があるため、今後、必要に応じて検討することとしたい。

- ・ 決議758及び759 (WRC-15議題1.6) に関するWD-PDNRep及びWD-CPM textの修正提案

13.4-13.75 GHz帯におけるFSS とRNSとの周波数共用レポート (4A/J-2)

資料衛・科9-2-2に基づき、河野氏（スカパーJSAT）より説明があった。

主なやり取りは、以下のとおり。

大石 構成員：確認結果によって、could又はcanを使うとのことだが、couldの場合は、弱いニュアンスとなるがそれで良いのか。

河野 氏：実際に13 GHz帯を使用している免許人の意向を反映するために、現時点ではスクエアブラケットを付している。FSSの立場としては、共用可能であろうとはっきり述べたいが、もう少し婉曲的な表現を使いたいという意向があればそのように記載することとしている。この点は、現在調整中である。

- ・ WRC-15議題1.8に関するWD-PDNRep及びWD-CPM textの修正提案  
ESVと地上業務との周波数共用 (4A/J-3)

資料衛・科9-2-3に基づき、河野氏（スカパーJSAT）より説明があった。

主なやり取りは、以下のとおり。

大石 構成員：27ページ目に「Document 4A/XXX」とあるが、提出前に番号を記載した方が良い。

河野 氏：元々作業文書にあった文言だが、議長報告を参照していると思われるため、追記を検討する。

- ・ WRC-15議題1.9.1CPMテキストの改訂提案 (4A/J-4)

資料衛・科9-2-4に基づき、三留氏（日立製作所）より説明があった。

特段、質疑なし。

- ・ 新ITU-R報告草案

S.[FSS 7/8 GHz COMPATIBILITY]作業文書の追加要素提案 (4A/J-5)

資料衛・科9-2-5に基づき、三留氏（日立製作所）より説明があった。

特段、質疑なし。

○ WP4B (FSS、BSS、MSSのシステム、無線インターフェース、性能及び稼働率の目標) 関係

・ 新勧告案 ITU-R S.[DIGCID]

固定衛星業務における随時利用の地球局送信で用いるデジタル変調キャリア識別システム (4B/J-1)

資料衛・科9-2-6に基づき、福井氏 (KDDI) より説明があった。  
主なやり取りは、以下のとおり。

大石 構成員：寄与文書のタイトルが「Draft New Recommendation~」となっているが、WPで議論する段階では、タイトルにはPreliminaryを残しておき、WPで承認された時点でPreliminaryを削除するのが通常の方法と考えるがいかがか。

橋本 構成員：SGが違えば文化が違うのではないか。PDNRとして維持するかDNRへ格上げするか、提案元に強い意志がなく議論の結果次第という場合は、WPの最終段階で消すこととなる。しかし、Preliminaryは最終段階で削除するというルールはないため、このままで良いのではないか。

福家 氏：今回、DNRへ格上げしたいという意向があるため、原案どおりとしたい。

・ WP4B議長報告Annex3に含まれたITU-R レポートS.2173[衛星システム用マルチキャリア伝送技術]の修正報告草案に対する修正提案 (4B/J-2)

資料衛・科9-2-7に基づき、山下氏 (NTT) より説明があった。  
主なやり取りは、以下のとおり。

大石 構成員：用語集が最初にあるが、資料衛・科9-2-6では用語集は最後にある。ITU-Tの文書は、用語集が最初にあるという印象があるが、本文書では最後に記載する方が良いのではないか。

山下 氏：用語集が最初にある状態で承認されているレポートの改訂なので、そのまま最初に置いておくこととしたい。

・ WP4B議長報告Annex4に含まれたITU-R S.[MULTI\_POL]「衛星通信における多次元信号マッピング技術」の新報告草案に対する修正提案 (4B/J-3)

資料衛・科9-2-8に基づき、山下氏 (NTT) より説明があった。  
主なやり取りは、以下のとおり。

大石 構成員：Attachment 1の3行目の「ITU-R Report M.2175」は「Report ITU-R M.2175」へ修正をお願いしたい。

山下 氏：承知した。

- ・新勧告草案ITU-R BO.[UHDTV\_TRANSMISSION]に向けた作業文書の提案

超高精細度テレビジョン衛星放送のための伝送方式（4B/J-4）

資料衛・科9-2-9に基づき、鈴木氏（NHK）より説明があった。

主なやり取りは、以下のとおり。

大石 構成員：recommendsに勧告すべき内容の記述があるが、「should be」のままとするか、それとも、shouldを削除し、より強い表現にしたいのか確認したい。

鈴木 氏：従来勧告に準じて「should be」としたい。

○ WP4C（移動衛星（MSS）の軌道／周波数の有効利用）関係

- ・勧告改訂草案ITU-R M.1831への修正提案

RNSSシステム間干渉評価のための調整方法（4C/J-1）

資料衛・科9-2-10に基づき、三留氏（日立製作所）より説明があった。

主なやり取りは、以下のとおり。

大石 構成員：通常、ITU-R勧告は「The ITU Radiocommunication Assembly」から始まるが、その前に関連勧告一覧等を記載するのか。

三留 氏：ITU-R勧告に関するガイダンスが以前発行され、初めに用語集や関連する勧告レポート等を載せるようにと記載されているため、その規定を参照した。

(4) ITU-R SG4関連会合（2014年6~7月）の外国等寄与文書の審議表（案）について

平成26年6月4日時点で公表されている外国入力文書の審議表（案）について、資料衛・科9-3に基づき事務局から説明があり、承認された。

(5) ITU-R SG4関連会合（2014年6~7月）の対処方針（案）について

対処方針（案）について事務局から資料衛・科9-4に基づき説明をし、対処方針（案）に基づき対処することが承認された。

以上